わたしのほやねさん

「ほやねさん」とは…　つらいときや悩んだとき、そっと寄り添って「ほやね、ほやね」と話を聞いて、心を支えてくれる人

私は、中学生野球の監督をしています。日々指導をしていて、思うことがあります。悪送球に備えてベースの後方に回って備えることなどを、野球では「バックアップ」と言います。「バックアップ」を辞書で調べてみると「後ろだてとなること」という意味もあります。野球に限らず、指導者は「これをしていけない。こうするべきだ。」と、つい言ってしまいがちです。また、ユニフォームや道具を子どもの代わりに準備したり、「大きな声で挨拶して鞄をきれいに並べるのよ。」などと声掛けをしたりする保護者の方がいます。これらは、子どもたちが失敗をしないように、叱られないように、子どもたちの前へ出て、障壁を取り除こうとしているんだと思います。

最近の子どもたちに足りないのは「自主性」ではないかと感じています。その「自主性」を育むために、私たち大人も前に出るのではなく、「バックアップ＝後ろだて」することが大切ではないでしょうか。

子どもたちが自主的にやることに対して口出しをせず、そっと後ろで見守る。もし、うまくいかないときには「ほやね。」と子どもの声を聴いてあげる…。そんな「ほやねさん」にあふれたチームになることを願っています。私もそうなれるよう努力します。

ペンネーム　野球のおじさん

募　集

あなたがこれまでに出会ったほやねさんを400字程度の紹介文と一緒にお寄せください。

■応募方法

住所・氏名またはペンネーム・電話番号を明記し、直接または郵送、Eメールでまちづくり推進課へ。

〒509-5192（住所不要）

✉machisui@city.toki.lg.jp

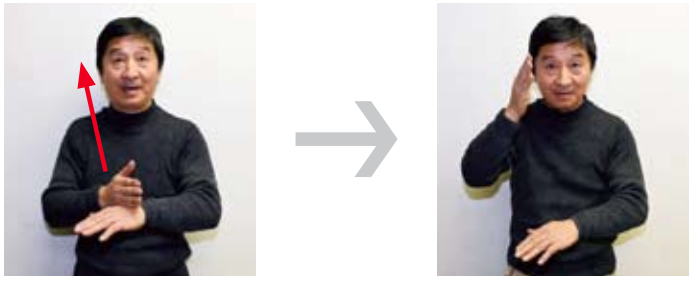
☎(内線312)／FAX㊺7763

ようこそ手話の世界へ

福祉課（内線217）

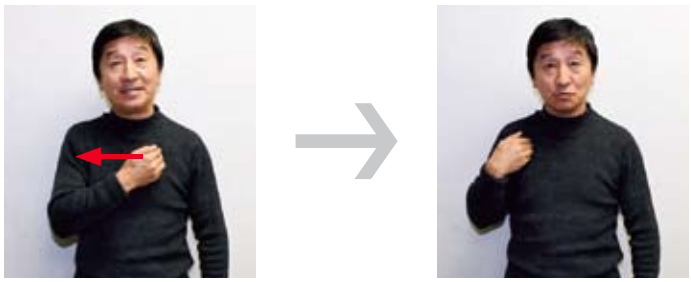
かんたん手話講座　手話で話そう！

ありがとう



左手の甲に右手を垂直に乗せ、上げる

大丈夫



指先を左脇から右脇あたりへスライドする

ろう者とのコミュニケーション

ろう者とは、耳の聞こえない人々のうち、主に手話でコミュニケーションをとって生活をする人々です。そのため手話で会話することが一番安心できるのですが、手話には重要なことが2つあります。

1つ目は口を動かすこと。手と口の動きで表現します。2つ目は表情です。喜怒哀楽なのか質問なのかは、手の動きだけでは伝わりません。手の動き＋口形（こうけい）＋表情＝手話なのです。

日常生活では、口形と表情から情報を読みとっているので、マスクを付ける人が多くなった昨今は口形はもちろん表情もつかめず、情報を得ることが困難です。そんな時は、身振りを交えたり、手のひらに文字を書いたりすることが有効です。